

## 55 すほうばた いせきしゅつどいぶつ 周防畑B遺跡出土遺物



指 定 市有形文化財 昭和62年10月20日  
所有者 佐 久 市

浅間山の南麓に展開している「田切り地形」が、微高地状の地形となる小海線中佐都駅から岩村田駅の地帯には、弥生時代から平安時代の大遺跡が存在している。

周防畑B遺跡は、佐久平駅の西に位置している。昭和55年（1980）に行われた発掘調査により、住居址41軒、土坑27基、井戸址2基、弥生時代後期の円形周溝墓2基などが検出された。

このうち、2号円形周溝墓からは、多量の土器とともにガラス小玉12点が出土した。土器は周溝内より14点、墓壙（主体部）より3点が出土し、器種は壺・甕<sup>かめ</sup>・坏<sup>たかつき</sup>・高坏・深鉢であった。

当遺跡の円形周溝墓は千曲川流域で最も古く、主体部は壺棺と木棺をもつ特異な形態であり、貴重である。

2号円形周溝墓出土遺物  
壺・甕・坏・高坏・深鉢 22点 ガラス小玉 12点